

今

年モカー・オブ・ザ・イヤ
ーはトヨタ車でキマリ

業界内では早くもこんなウ
ワサが飛び交っている。言うまでも
なく、その候補は8月31日に登場す
る3代目セルシオだ。16〜17ペー
ジのカラー写真を堪能していただいた
ところで、今度は詳しい仕様装備を
チェックしてみよう。

全長は現行モデルと変わらないも
の、キャビンスペースは拡大され
ており、前後ヒップポイント間は現
行比プラス50の1034に。ま
た、ヘッドクリアランスもフロント
で25、リアで40、拡大。ホイール
ベースが75、長い2925に延長
されているにもかかわらず、最小回
転半径は5.2に縮小され、取り
回しやすさが維持されている。

インパネで注目しておきたいのは
ドアトリムからつながる本木目パネ
ルと、世界初の白色LEDを採用し
たオプティトロンメーターだ。本木
目パネルはライトブラウンとミディ
アムブラウンの2種類が用意され、
内装色に応じて使い分けられる。

その内装色は基本的にアイボリー
とチャコールの2色で、全ホテイク
ラーとも好みの内装色と組み合わせ
ることが可能だ。さらに、本革シ
ートをオプション選択した場合、エ
クリュとブラックも加わり、全4色の
ワイドパリエーションから選ぶこ
とができる。

キャビン全体を快適に保つニュー
ラルネットオートエアコンは吹き出
し温や風量をキメ細かく制御するだ
けでなく、NOx検知機能付き内外
気自動切り替えシステムも備える。
なお、これ以外のハイテク技術や新
装備に関しては、下記の解説を参照



DVD チェンジャー

グローブボックス上のスペースに収納される6
枚ディスクチェンジャーで、急速に普及しつ
つあるDVDビデオが再生できる。もちろん、これ
までの音楽CDやビデオCDにも対応している。
トランク内設置型と異なり、クルマから降りる
ことなくディスクチェンジャーが行入って便利だ。全
グレードにオプション設定で、エレクトロマル
チビジョンを選択した場合のみ装着可能。

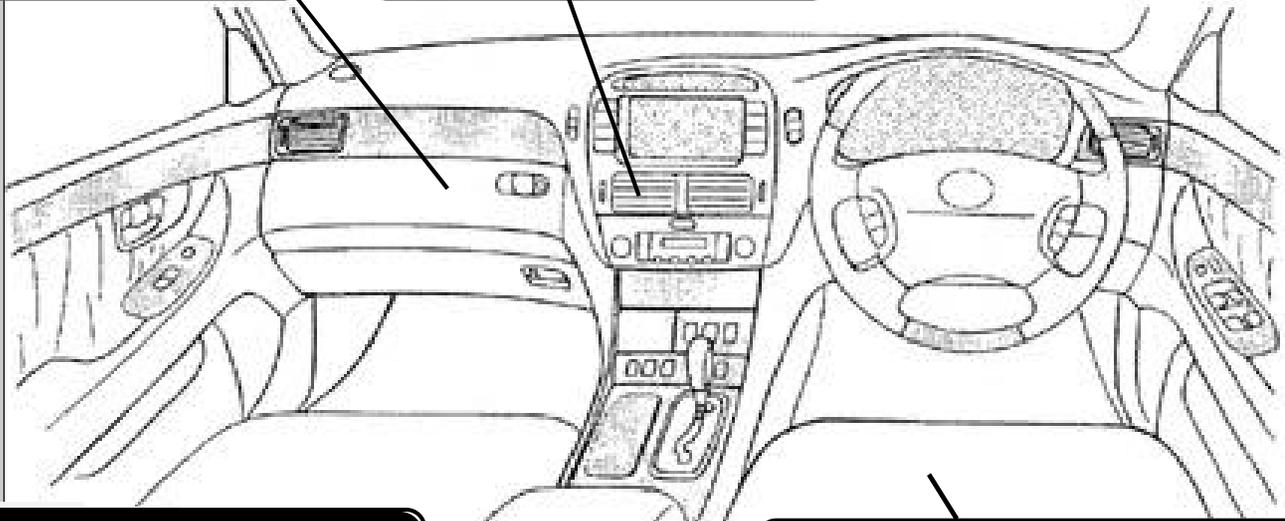
インテリジェントスイングレジスター

乗員状況や車内温度に応じてレジスターの振り角が自動制御
されるシステム。空調ON直後には乗員方向に固定され、車内
温度が安定してくるとレジスターがスイングし始める、とい
ったことも自動的に行われるのだ。



低反射ウインドウガラス

インパネの彩色に配慮するとともに、映り
込みを抑えたガラスを新開発。クルマへの
採用は世界でも初めてだ。これにより、前
方視界が向上し、安全性アップにもつな
がるだろう。

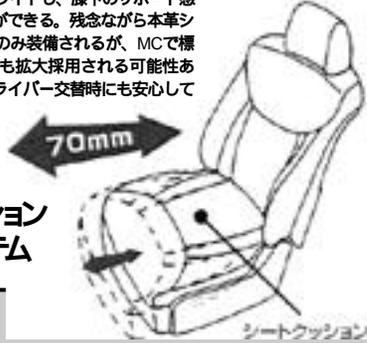


6連奏MDチェンジャー

オーディオソースのチェンジャーはカセットテープに始
まり、CDの時代を経て、いまやMDにまで達した。センター
コンソールボックス下段に設置され、6枚のMDを収めるこ
とができるチェンジャーはディーラーオプションの純正品
なので、クルマとのマッチングや保証期間の面でも安心だ。
なお、1枚がけのMDプレイヤーはメーカーオプションで用
意されており、こちらとの組
み合わせも可能はずだ。



ありそうでなかった装備のひとつ。シートクッ
ションが前後方向に70mmスライドし、膝下のサポート感
を自由に調整することができる。残念ながら本革シ
ート装着車の運転席にのみ装備されるが、MCで標
準のモケットシートにも拡大採用される可能性あ
り。電動式なので、ドライバー交替時にも安心して
調整できる。

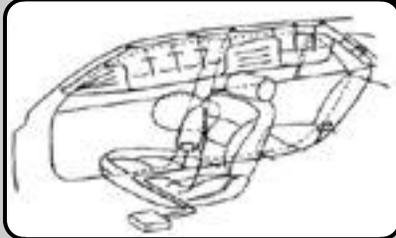


運転席クッション 長可変システム

本命 3代目セルシオ

SCOOT 11

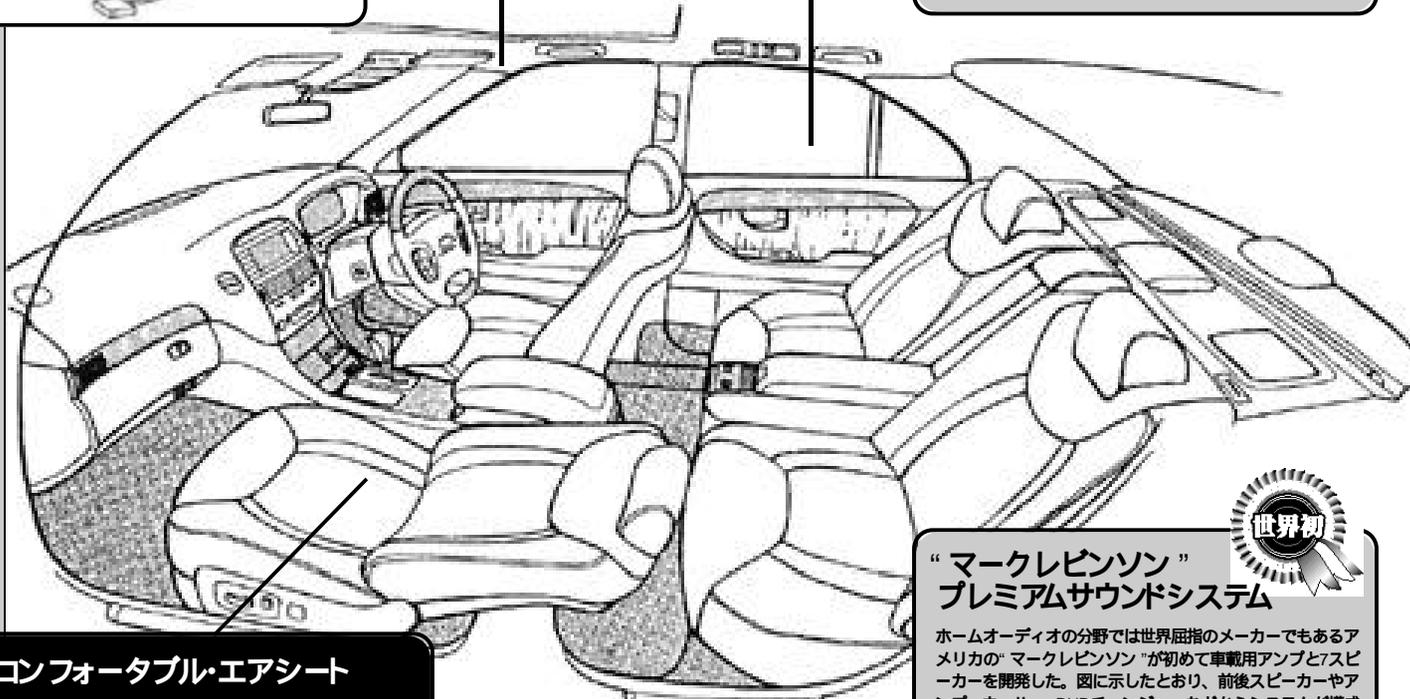
前後席SRSカーテンシールドエアバッグ



新たに全グレードに標準装備されるカーテンシールドエアバッグはプログレと同じく、衝突時に乗員の頭部を守る重要な安全装備だ。これまでどおり、デュアルSRSエアバッグやサイドエアバッグ、シートベルトプリテンショナー&フォースリミッターも装備され、安全面での抜かりはない。

リアドア手動サンシェード

後席乗員を直射日光から遮るためのユニークな手動サンシェードで、ドアトリムに内蔵される。主ウィンドウ部分は下から引っ張り上げ、クォーターウィンドウ部分はサッシュ側から横方向に引っ張り出す仕掛けになっている。設定グレードはショーファードリブン向けの「CFパッケージ装着車」のみ。せめてメーカーオプションで他グレードにも設定があればよかったのだが、プライバシーガラスでも十分か



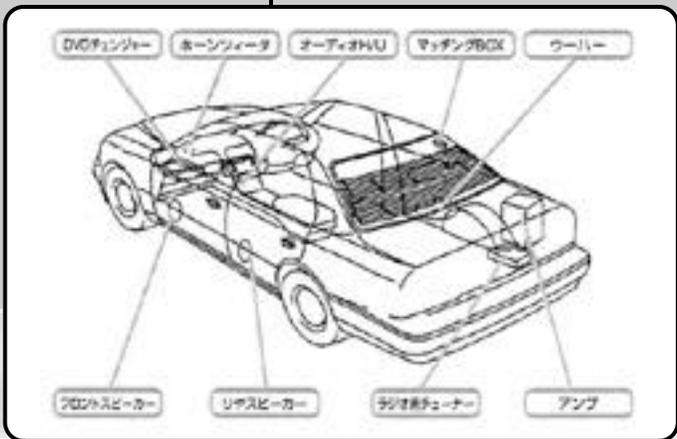
コンフォータブルエアシート

シート下の送風ファンにより、クッションとシートバックそれぞれに風が吹き付けられ、ムレを抑えて乗員の快適性が保たれる。送風モード以外にも冷風、温風が選択できるため、四季を通して活用できる。開発部署が行ったクールダウン試験では空調なしのシートに比べ、明らかにシートの表面温度が下がるとの評価がくだされただけに、実際に座って試してみたい装備だ。本革シート装着車にのみオプション設定され、シートヒーターとの同時選択はできない。



“マークレビンソン”プレミアムサウンドシステム

ホームオーディオの分野では世界屈指のメーカーでもあるアメリカの“マークレビンソン”が初めて車載用アンプと7スピーカーを開発した。図に示したとおり、前後スピーカーやアンプ、ウーハー、DVDチェンジャーなどからシステムが構成され、極上のサウンドがもたらされる。全グレードのレクトロマルチビジョン選択車に装着可能だが、一説ではオプション価格が50万円に設定されるとか。しばし現実から解放され、最上のリスニングルームで音楽に浸りたいアナタにはオススメの逸品。



トヨタ4連覇も 確実か!?

2000 / 9

COTY 大本



全9色のボディカラー

二代にわたって装着されてきたクラディングパネルが廃され、新型モデルでは全ボディカラーともモノトーン基調となる。新たに5つの新色がラインナップされ、幅広いバリエー

ションから好みの色が選べるようになる。年頭のデトロイトショーに出品されたレクサスLS430に塗装されていたシルバーMが3代目セルシオのイメージカラーとなる。

■新型セルシオの内外配色一覧（標準部予想）

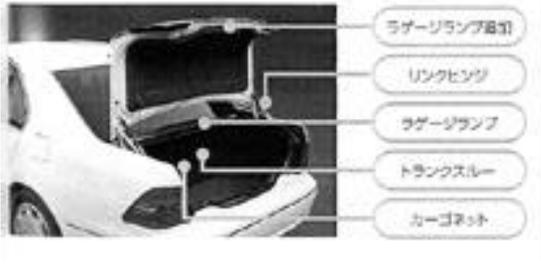
シートタイプ	シート表皮	内装色	ボディカラー												
			ライトブラウン	ミディアムブラウン	062	066	100	202	3P2	3P4	6S5	6S6	6P8		
C仕様	本革	ブラック	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		エクリュ	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		アイボリー	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		チャコール	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
B仕様	本革(※)	ブラック	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		エクリュ	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		アイボリー	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		チャコール	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
A仕様	モケット	アイボリー	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		チャコール	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		エクリュ	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		アイボリー	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(※)eRバージョンは標準設定 ●標準設定 ▲メーカーオプション

3代目も 新技術が満載だ！

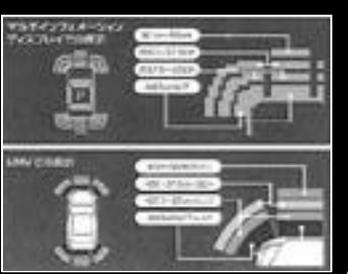
リンクヒンジ式トランクリッド

燃料タンクを床下に配置し、リアエアコンユニットの小型化を図ったことでトランク容量は133モアップして573に。満載時にも荷物を傷めず、スムーズな開閉タッチが味わえるリンクヒンジが新採用され、リッド側には頭上から照らすラゲージランプが追加される。燃料タンクが移設されたことでトランクスルーも可能となり、リアアームレスト部分に長尺物を通すことができる。一方、後席乗員への配慮からリッドにはイージークローザーが装備され、静かに閉めることが可能となる。



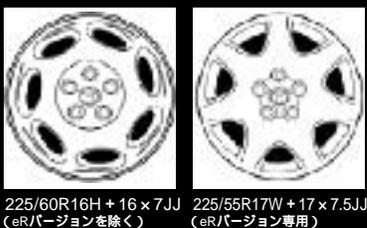
クリアランスソナー

全車にオプション設定のクリアランスソナーはフロントに6個、リアに4個のセンサーが設置され、障害物に反応。これまでのブザー音に加え、ビジュアル表示も設けることでドライバーによりわかりやすく情報を伝える。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに障害物を感知している箇所と距離が表示されるが、エレクトロマルチビジョン装着車では画面上にカラー表示されるため、いちだんとわかりやすいだろう。



アルミホイールは2種類

足元には16インチアルミホイールが装備され、キリリとした表情がかもし出されるが、「eRバージョン」は高いポテンシャルを支えるため、17インチの専用品を採用。また、全グレードともサイズ&デザインはそのままに、クロームメッキ仕様をオプション選択することも可能だ。



225/60R16H + 16 x 7JJ (eRバージョンを除く) 225/55R17W + 17 x 7.5JJ (eRバージョン専用)

安全装備アイテムでは前後席SR Sカーテンシールドエアバッグ(27ページ参照)や、衝撃の激しさに合わせた出力で展開する2段階助手席エアバッグ、WIL(頸部傷害低減)コンセプトシートが目新しい。また、ブレーキペダル後退抑止機構は衝突時にペダルが室内側へ飛び出すのを抑え、ドライバーの下部への衝撃を緩和する。

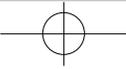
そのほか、後席シートベルトにもプリテンションナーとフォースリミッターが追加されたり、積載時にも有効に働く改善版ブレーキアシストの搭載 ISO FIX対応バーの採用など、世界トップレベルの安全性が確保される。

エクステリアは16ページでも紹介したとおり、かたまり感がいちだんと強調され、力強さがにじみ出ている。ライバル各車にも引けを取らない外観フォルムは、国内外においてふたたび高い人気を呼びそうだ。

3代目セルシオは安全面でも飛躍的に進化している。「新GOA」と呼ばれる衝撃吸収ボディの開発にあたっては、オフセット前面衝突試験の実施速度が従来の60/hから64/hに引き上げられ、側突試験も10%速い55/hで行われた。

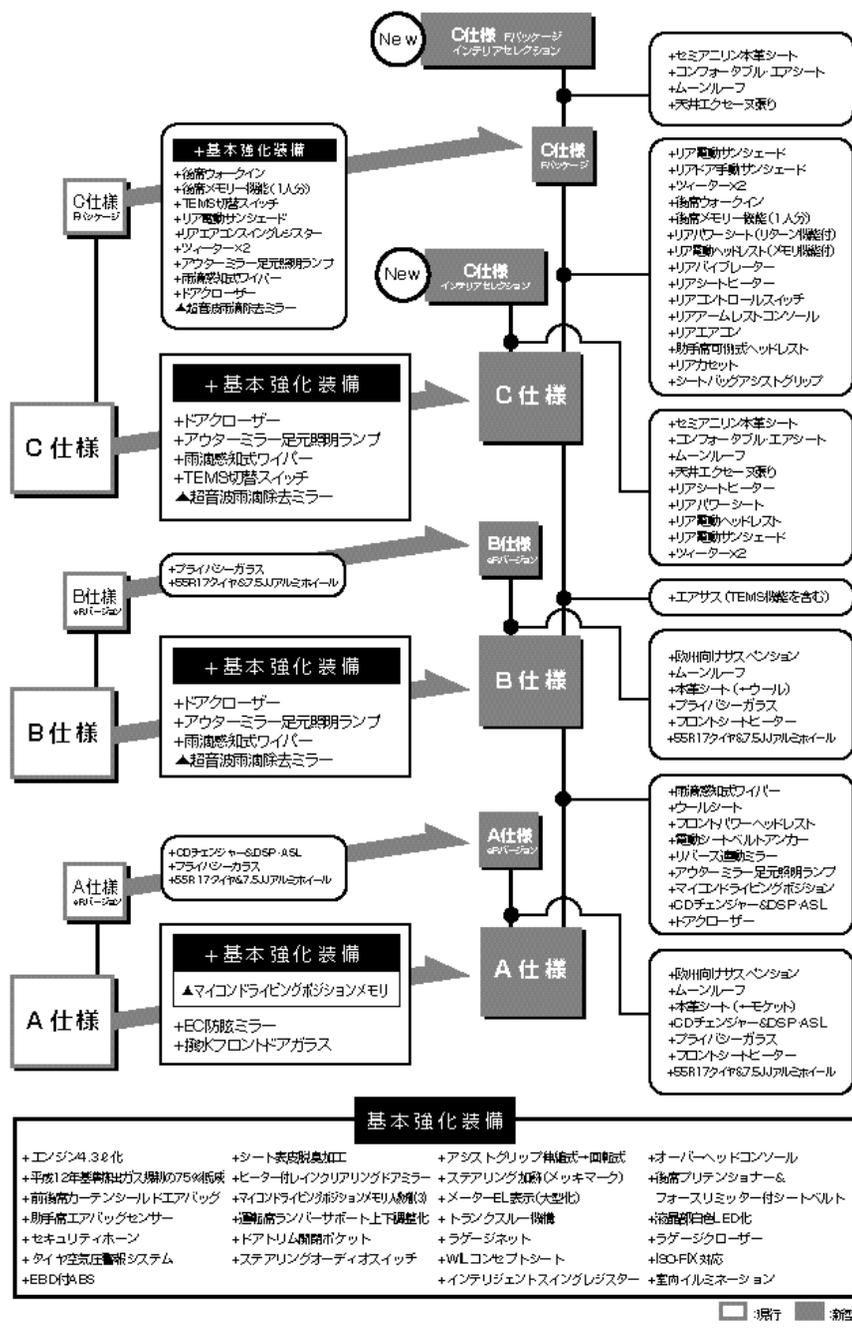


新製品情報 7月10日、ミラジーノ、ネイキッド、ムーヴの安全装備が充実。同時に乗員に優しい安全インテリアを「SOFI」と名づけた。



SCOOP 11

■セルシオの新旧グレード別装備差 (編集部予想)



環境性能はどうか。V8エンジンがパワフルだからといって、有害物質の多い排気ガスを垂れ流していたのでは、世界トップクラスを名乗る価値はない。その点、新型セルシオは平成12年基準排出ガス規制の75%低減レベルを達成しており、購入時に取得税が1% (10月以降は0.1%) 軽減されるメリットも享受できる。なお、リアウインドウにはプリウスと同じ、超 低排出ガスのステッカーが貼られるはずだ。グレード展開は現行モデルと同じ

く、「A」「B」「C」の3タイプから構成され、「A」と「B」には欧州向けサスペンションや17インチアルミホイール、本革シート、プライバシーガラスなどがセットされた「eRバージョン」も引き継ぎラインナップされる。また、「C」にはショーファードリブのな使い方に適した「Fパッケージ」も用意。こちらは後席ゲストをもてなすにふさわしい装備が数多く盛り込まれる。

さらに、新型モデルで初登場となるのが「インテリアセレクション」だ。これはレザー独特の風合いやソフト感を最大限に引き出したセミアニン本革シート、エアコン機能を備えたコンフォーターブル・エアシート、エクセター・ブレイク・エアシーツになったパッケージで、こちらも「C」にのみ設定される。

基本装備は全グレードとも現行モデルに比べて大幅に充実する。具体的にはトランクリッドイジックロージャーやセキュリティホーン、室内イルミネーションなど、内外装からメカニクス関連まで、広範囲にわた

品質目標は いちだんと高く

高品質

アメリカの調査機関「J.D.パワー社」が全米で車両購入3カ月後に顧客に対して行った初期不具合アンケートで、現行セルシオはBMW 7シリーズ(843点)やベンツSクラス(816点)を凌駕し、849点を獲得した。引き続き世界最高の品質を維持するため、新型モデルでは目標値を890点に定めて開発が進められてきたという。その実力のほどを、早く確かめてみたいね。

セルシオ「C」とベンツS320を比べてみると、4.3 V8エンジン、デイスチャージャーヘッドランプ、全ドアイジッククローザー、ラインクリアリングドアミラー、撥水ドアガラス、ウールシート、電動ランバーサポート、タイヤ空気圧監視システムなど、セルシオが勝っている装備が多いことに気付く。もちろん、リアサイドエアバッグやナビゲーションシステムなど、ベンツに及ばない装備もあるが、価格設定に200万円もの差があれば、大半の消費者はセルシオにココロが傾くことだろう。これはBMW 7シリーズと比較しても同様の結果になるはずだから、購入検討者は両車のカタログを取り寄せてじっくりと眺めよう。